

令和3年度全九州高等学校ウエトリフティング競技選手権大会
《 新型コロナウイルス感染拡大防止対策ガイドライン 》

2021.4.26

1 大会開催の判断について

- ① 開催地及び主管者より「中止要請」があった場合は開催を中止とする。
- ② 全国的に感染が拡大し、都道府県を跨ぐ移動が制限される状態になった場合、主催者と主管者が協議し中止とする。
- ③ 5月上旬に実施要項を九州高体連ホームページに掲載し、開催準備を進める。実施については九州高体連と1ヶ月前を目安に判断を行うこととする。開催する場合は特別ルールや感染拡大防止対策について参加者へ再度周知する。
- ④ 参加予定者の各県あるいは高校で参加中止の申し出があった場合はその状況を見極め中止すべきか協議することとする。
- ⑤ 競技会期間中に感染者が、関係者（選手、監督、セコンド、競技役員、競技補助員）で発症した場合は開催続行可否について九州高体連と協議することとする。

2 参加者への対応について

- ① 体調の確認を徹底する。（書面提出を求め、主催者側で一定期間保存）
- ② 大会1週間前から以下の事項の有無を調査し、該当する場合は参加を見送る。
 - ア) 新型コロナウイルス感染症陽性者とされたもの
 - イ) 新型コロナウイルス感染症陽性者とされた者との濃厚接触者
 - ウ) 同居家族や身近な知人に感染が疑われる方がいる場合
 - エ) 過去14日以内に政府から入国制限、入居後の観察期間を必要とされている国、地域への渡航または当該在住者との濃厚接触者がある場合

3 事前周知について

- ① 参加者は、特別な状況下にあることを理解し、申込みにおいて特別ルールや運営が通常と異なることを承諾したものとして参加すること。
- ② 健康調査票を記入し、持参する。体調不良者は入場を認めない。
- ③ 場内では、三つの密を避け、マスク等を着用し感染防止に努める。
- ④ 会場に入場できるのは 関係者（ア競技役員、競技補助員 イ監督 ウ引率責任者 エ選手オ報道）のみとする。
- ⑤ 会場にゴミ箱は設置しない。持ち込んだものは各自がゴミ袋等を用意し、持ち帰ること。
- ⑥ 手洗い後に使うマイタオルを持参（貸し借りをしない）すること。
- ⑦ 大会期間中は外出を避け、健康管理に務めること。
- ⑧ 除菌シート、アルコール消毒、マスク、体温計など、必ず学校単位で準備すること。
- ⑨ 記録表やスタートリストなどの配布は行わない。メール等で配信する。

4 実施体制の確立について

- ① 競技委員長の指示のもと、大会がスムーズに運営されるよう、コロナ感染防止策においても細心の注意を払うこととする。
- ② 高校の責任者は、監督（顧問）とする。大会出場が決定してから、強化はもちろん体調管理にいたるまで、大会最終日まで、コロナ感染防止対策への細心の注意と遵守を徹底すること。
- ③ 本大会が成功裡に終わるためには、先生方の行動、協力にかかっています。一人一人が、子供たちの未来を保証できるようにコロナ感染対策をこなさなければなりません。

5 諸会議（ソーシャルディスタンス・マスク等着用・手指消毒の徹底）

- ① 受付で健康観察（検温等）をしてから入場する。
- ② 審判打ち合わせは短時間で計画し、会場で席の間隔を十分とり実施する。
- ③ 監督会議は行わない。事前連絡もしくはリモート会議を行う。
- ④ 感染拡大防止対策について、周知し徹底する。

6 受付

- ① 入場できる関係者（ア競技役員、競技補助員 イ監督 ウ引率責任者 エ選手 オ報道）入り口で必ず受付をする。
- ② 上記①は健康調査票を提出し、係員の元、健康状態及び連絡先を確認する。
- ③ 係員は検温を実施し、発熱が軽度であっても咳・咽頭痛などの症状がある人は入場しないよう呼びかける。（37.5℃以上の者は入場を制限する）

7 会場

- ① 各県ごとに控室を設ける。
- ② 競技役員、競技補助員は指定された場所を待機場所とする。
- ③ 会場では換気を常に行い、窓やドアの開閉を工夫することとする。
- ④ 会場での会話や声援を控える。
- ⑤ 利用後は使用した箇所の消毒を行い、ゴミは全て持ち帰る。
- ⑥ 更衣室は合宿所浴室のみとする。（1度に最高5名までとする）

8 検量

- ① 検量室に入るのは選手のみとする。
- ② 試技票は事前（受付）に配布し、監督サインも含めた必要事項を記入して持参する。検量時は記載された体重を目視で確認し、係がチェックを行う。（特別ルール）
- ③ 検量待ちの選手の間隔を適切に保つよう、表示をする。
- ④ 検量時も必ずマスクを着用する。（特別ルール）
- ⑤ 係員は最少人数で対応する。（審判2名が計量、審判1名検量リスト、TC1名試技票）
- ⑥ 選手ごとに計量器の消毒を行う。
- ⑦ 室内の換気を常に行う。

9 アップ場（9面を準備する）

- ① セCONDは1階級1選手2名とし、1階級の中で1名増すごとに1名追加とする。（特別ルール）
- ② 選手以外はマスクを着用する。
- ③ 椅子は選手数のみ設置する。
- ④ アップ場所のリング移動は避け、同じバーを利用する。（9面準備）
- ⑤ 大きな声で指示を出さない。
- ⑥ 炭マグは、小分けにして各選手各自準備する。使用後は持ち帰ること。
- ⑦ バーごとに消毒シートを用意し、常に消毒できるようにしておく。
- ⑧ 利用後は使用した箇所の消毒を行い、持ち込んだものは全て持ち帰ること。
- ⑨ 混雑を避けるため、階級の競技終了後、直ちに退場させ清掃と換気を行う。

10 招集所

- ① 椅子は適切な距離を保ち配置し、移動しない。
- ② 重量変更は、変更用紙に記入して申告し、筆記用具は持参する。（予備は用意する）
- ③ 大きな声で指示を出さない。声援は控える。
- ④ 炭マグは、選手出入口に長机を設置し、各自配布されたものを使用する。（特別ルール）
- ⑤ 飲み物容器やテーピング等、使用したものは各自持ち帰る。
- ⑥ セCONDは1選手2名までとします。1名増すごとに1名追加とする。

11 試合場

- ① 選手のマスクの使用を認める。（特別ルール）
- ② 各自の炭マグは指定された机において使用する。
- ③ 器具係は、席を配置し、マスク・手袋を着用する。（特別ルール）
- ④ 試技ごとにバーを消毒シートで拭きとる。
- ⑤ レフリー、テクニカルコントローラー、タイムキーパーは、フェイスシールド等を着用する。
- ⑥ ジュリーは、席の間隔を広く設定し、フェイスシールドを着用する。
- ⑦ 競技時間短縮のため30秒ルール、連続試技1分30秒とする。（特別ルール）
- ⑧ グループ終了ごとに、審判席、使用機器の消毒を行う。
- ⑨ 審判席への飲み物の提供は行わない。

1 2 練習会場（競技時間外）

- ① アップ場の9面を練習会場とする。試合時間外。
- ② 練習時間は事前に割り振る。
- ③ 利用時間は、30分程度をめぐとする。
- ④ 混雑を避けて入場制限をする。
- ⑤ 使用後、必ず消毒を行う。
- ⑥ 練習場に入れるのは選手だけとする。

1 4 式典

- ① 開閉会式は実施しない。
- ② 表彰式は実施しない。写真撮影時召集する。
- ③ 入賞者のマスク等の着用は任意とする。（写真撮影時のみマスクを外してもよい）

1 5 役員・補助員

- ① 場内では、マスク（フェイスシールド等含む）を着用する。
- ② 物品の受け渡しを伴う係は手袋を着用する。
- ③ 大きな声は出さず、広い場所での指示は場内放送及び拡声器等を使用する。
- ④ 最初に会場入りする際は、受付で健康調査書を提出し検温して係の指示に従います。2日目以降は、受付名簿で確認し、検温してから係の指示に従う。
- ⑤ 互いに適切な距離を保ち、三つの密を避ける。
- ⑥ 通常の大会とは異なる状況であること理解し、参加者の模範となる行動を心がける。
- ⑦ 健康管理に留意する。
- ⑧ 会場内を巡回し、感染防止対策が実施されているか点検し指導する。（係員、巡回場所・時間を決めて対応する）

1 6 大会後の発症について

大会終了後に、参加者から感染が発症した場合には、各県高体連に連絡すると同時に、生活圏内自治体に報告し、感染拡大防止の指示に従わなければならない。